

関連図書のご案内

中央報徳会 編纂（明治39年、昭和21年刊）
復刻版 **新民（しんみん）** 全38巻・別冊1

地方改良運動・農村更生運動等に多大な影響を与えた中央報徳会機関誌。報徳主義思想研究の資料にとどまらず、地方自治・農政史を含む日本近現代史研究の宝庫でもある。

- 別冊Ⅱ解説（金澤史男）・解題（酒田正敏）・目次総覧
- 推薦Ⅱ海野福寿・宮崎隆次・宮地正人・和田守
- A4判・上製・総14、200頁・4面付方式
- 本体揃価格768、000円＋税

編集復刻版

文部省思想統制関係資料集成 全11巻

一九三〇年代以降の学生思想運動の取り締まりから教育全般の統制へ、さらには総力戦下の戦争遂行体制へと向かうなかで、特高警察や思想検察とは異なる、教育の場における治安体制の一翼を担った文部省。その「思想統制」から「教学錬成」への流れを解明する資料群・50点を収録。

- 編・解説Ⅱ荻野富士夫
- 推薦Ⅱ額田厚・逸見勝亮・前田一男・松尾尊亮
- A4判・上製・総4、620頁・4面付方式
- 本体揃価格275、000円＋税

沖縄県教育会／沖縄教育会 発行（明治39年、昭和19年刊）
復刻版 **沖縄教育** 全37巻・別冊1

沖縄における「大和化」政策など、近代沖縄における教育と文化の史実を解き明かす上で最も重要な資料であることはもちろん、広く沖縄近代史の基礎的資料でもある。

- 別冊Ⅱ解説（藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わか）・総目次・索引
- 推薦Ⅱ逸見勝亮・三木健・屋嘉比取
- B4判・A5判・上製・総約13、200頁
- 本体揃価格540、000円＋税

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替001602294084

【編集復刻版】
戦後新教育・「実力の検討」
実践資料集 全4巻

◎体裁 B5判／上製本／総約2、850頁

◎解説 須田将司（東洋大学文学部准教授）

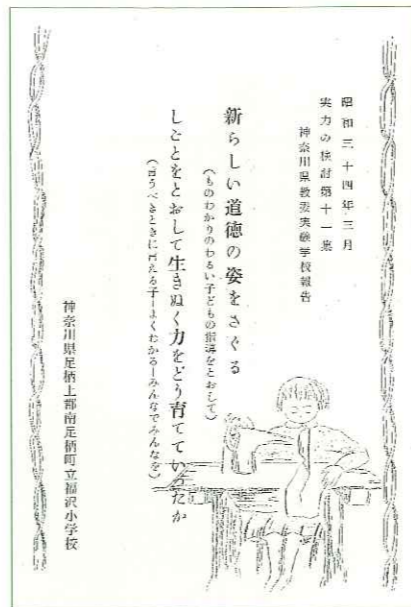
◎推薦 影山清四郎・梶山雅史

◎原本提供 井上喜道氏

◎刊行 2013年6月

◎価格 本体揃価格 **98、000円＋税**

ISBN 978-4-183501738 6



【編集復刻版】

戦後初期沖縄ガリ版教科書集成 全4巻

●編・解説Ⅱ吉田裕久（広島大学大学院教育学研究科教授）

●A4判・上製・総約1、400頁

●予価Ⅱ各巻20、000円＋税

2013年10月近刊！

〈近刊予告〉

【編集復刻版】

戦後新教育・「実力の検討」
実践資料集 全4巻

◎体裁 B5判／上製本／総約2、850頁

◎解説 須田将司（東洋大学文学部准教授）

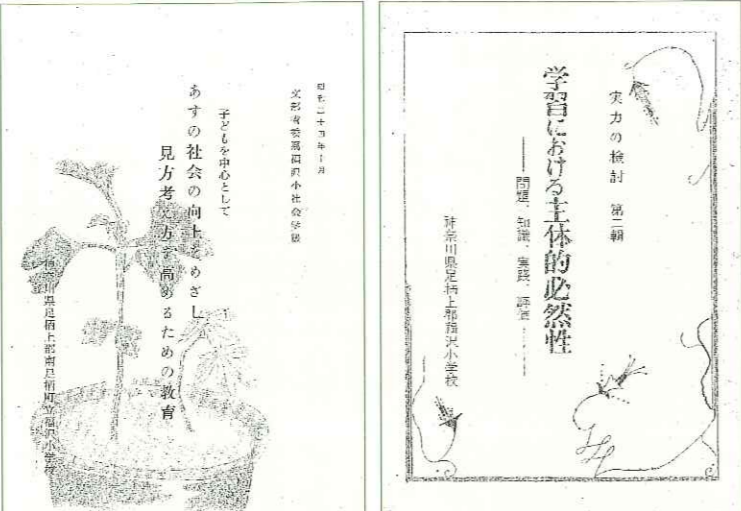
◎推薦 影山清四郎・梶山雅史

◎原本提供 井上喜道氏

◎刊行 2013年6月

◎価格 本体揃価格 **98、000円＋税**

ISBN 978-4-183501738 6



▲授業風景

★戦後誕生した「社会科」をはじめ、新教育の確立過程を
読み解くための重要資料を復刻！

不二出版

復刻の辞

戦後新教育の「花形」と言われた「社会科」。

日本各地で様々な試みが行われたが、戦前以来の報徳教育を土台に形作られた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」は、社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平（文部省教科書局）をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた。

当資料集は、一九四〇年刊の『報徳教育の理論と実際』、一九四六年段階の福沢小学校校長・井上喜一郎による草稿メモ類、一九四八年の『学校経営おぼえがき』、『生活カリキュラム』といった「福沢プラン」の模索と形成の内実を迫るものを収録している。加えて、その後連載された『実力の検討』シリーズ（一九五三～六四年、全16巻）等を収録した。

社会科に留まらず、子どもの「実力」をテーマに思考力・表現力・道徳性・個人差など、多様なテーマを含み独自の教育論を模索していった同校の歩みを通覧できるものとなっている。

いずれの資料も現在では閲覧困難であり、社会科教育・教育史研究はもとより教職をめざす学生・教師・思想史研究者等にとっても一読に値する資料群を呈するものである。

不二出版



▲井上喜一郎と子ども達

内容見本

▲（井上喜一郎文書）（一九四六年）

本校は、戦後新教育の模索と実践の中心地として、戦前以来の報徳教育を土台に形作られた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」は、社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平（文部省教科書局）をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた。

当資料集は、一九四〇年刊の『報徳教育の理論と実際』、一九四六年段階の福沢小学校校長・井上喜一郎による草稿メモ類、一九四八年の『学校経営おぼえがき』、『生活カリキュラム』といった「福沢プラン」の模索と形成の内実を迫るものを収録している。加えて、その後連載された『実力の検討』シリーズ（一九五三～六四年、全16巻）等を収録した。

社会科に留まらず、子どもの「実力」をテーマに思考力・表現力・道徳性・個人差など、多様なテーマを含み独自の教育論を模索していった同校の歩みを通覧できるものとなっている。

いずれの資料も現在では閲覧困難であり、社会科教育・教育史研究はもとより教職をめざす学生・教師・思想史研究者等にとっても一読に値する資料群を呈するものである。

推薦の言葉

学校現場での戦後新教育の受容と創造の歩みを語る教育研究資料

影山清四郎

神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校（現・南足柄市立福沢小学校）は、戦後社会科が発足した頃、東京の桜田小学校（港区立桜田小学校）一九九一年（廃校）とならんで農村地域での社会科実践校として名高い学校である。戦後新教育の多くの先進校が、一九五〇年代の逆コースといわれる教育政策の転換の中でその輝きを喪失していったのに対して、福沢小学校は井上喜一郎校長の指導の下に六四年まで社会科を中心に授業研究を展開してきた。

本シリーズは、社会科と戦後教育が大きく揺れ動いた時期に、同校がそれをどのように受け止め、創造的に発展させていったかを示す貴重な資料である。学力の育成や道徳教育の強化などが言われる今日だけに、同校の教育研究が復刻されたことは意義深いことである。

第一に、本シリーズは福沢小が戦前の報徳教育の成果を受け継ぎ、戦後新教育を地域社会と子どもの実態に即してどのように受容し、創造していったのかを示した社会科教育史のみならず戦後教育史研究に欠かせない、他に類をみない貴重な資料である。

第二に、それは「社会科がわかる」といかなることか、「その時、知識の働きは」、「授業の構成や教材のあり方は」、「子どもはいかに考えるのか」などの教育の根本的問題を授業研究に基づき追究した現場の教育研究書である。学校現場での教育研究のあり方を示した今なお色あせない研究である。

第三に、その中で示されている子どもの思考、それと結びついた教材の吟味、授業過程の構想とその振り返りなどは、貴重な授業研究書であるばかりか、現在においても明日からの授業作りに多くの示唆を与えるものである。

『実力の検討』の中から一冊を抜き出し、研究会や大学のゼミなどで読み合ってみると、教育の現状を見直し、新たな道をさぐる道しるべとなるであろう。

（横浜国立大学名誉教授）

戦時報徳教育から戦後新教育への転回

井上喜一郎文書が開示する新たな研究次元

梶山雅史

戦時体制下、皇国民の錬成に邁進した日本の学校・教師達は、一九四五年敗戦を迎え、軍国主義から民主主義へまさに価値観の反転する未曾有の事態に直面した。この激烈な過渡期を教育者達はどのように通過したか。その内面史へのアプローチは容易ではない。歴史のエポックにおける断絶と連続の諸相を掘り下げていく上で、この度、きわめて貴重な教育実践資料が発見された。神奈川県足柄上郡福沢村における戦時報徳教育から戦後新教育への転回、その変容過程の具体的内実によりやく迫ることが可能となった。井上喜一郎関係資料刊行の朗報に心から拍手を送りたい。

一九四〇年段階、福沢尋常高等小学校の実践報告書『報徳教育の理論と実際』には、戦時総動員に即応し、皇国民錬成に取り組んだ報徳主義の学校づくり・村づくりの全容がまことに克明に書き記されている。戦時期における報徳教育実践がこれほどまでに稠密に徹底して駆動されていたこと、その具体的歴史像に改めて強い衝撃をうけるにちがいない。この報徳教育の頂点校が、敗戦後、一体どのようにして『新教育指針』の執筆石山脩平の指導の下、新教育のモデル校となり、「福沢プラン」「農村地域社会学校」を産み出すに至るのか。問いは一層大きく強く深くなる。

一九四六～七年段階、校長井上喜一郎の草稿メモ類には、報徳教育から戦後新教育への模索の苦悩が記されている。報徳教育と民主教育の対比、報徳思想とデューイ哲学とを対比させる哲学的思索のあとが窺える。そして報徳教育の「戦時的」一部分の払拭が模索される。

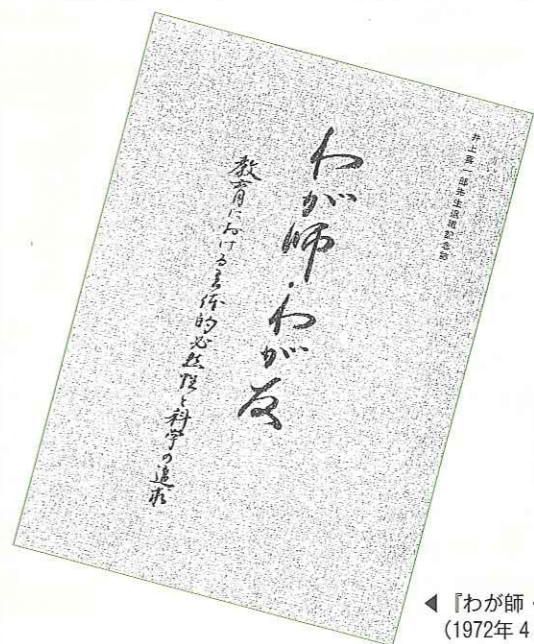
敗戦直後の空白虚脱混沌の荒野からの出立、立脚点の再構築がどのように進められたか。そしてその後の「社会を生きぬく実力形成」を課題とし続けた実践活動の道筋について、全四巻の新出資料群が新たな分析を待ちこがれているように映じてくる。戦中から戦後への転換・戦後新教育の研究領域に新たな研究次元が開かれるにちがいない。

（東北大学名誉教授・岐阜女子大学客員教授）

八、基底プラン（第一學年基底プラン）

[illegible]

(54)



◀『わが師・わが友』
(1972年4月)

『生活カリキュラムの実践（第三次案）』（1949年10月）


昭和三年二月

實力の検討第九集

子どもにわかる「社会科の指導」

(国に對する意識の養ひ方
社会科實踐上の問題)

神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校



▲『実力の検討 第九集』(1958年2月)

▼『生活カリキュラム』（1948年10月）

生活カリキュラムの構成は、新教育の最前線を行く学校が当然に采すべき課題である。児童と環境との動的な相互交渉に成立する生活経験をも再構成することは、教育の根本使命であつて、その最も具体的な仕事で、生活カリキュラムの構成である。この仕事は、したがつて児童と地域社会との一元的把握に基づく教育計畫の設計にほかならない。そこに教育のあらゆる契機は取り上げられ露せられる。

福澤小學校は、すでに社会科の実施以前から自由学習の形態における社会研究を試みていたのであるが、それはやがて文部省の指導による社会科の実験的研究に発展し、さらには今や東京文理科大学教育學教室の実験施設として、生活カリキュラムへと進んで來たのである。その述べた道程は苦難に充ちていたが、旺盛な教育情熱と研究意欲とが、つねに障礙を突破して來た。

ここに示されたカリキュラムは、新教育の理念が、現場における実践可能性と安全意とを以てて具現するたためには、いかなる形態を取るべきかという問題に対する実践的解答である。各教科の指導目標を分析して、これを前提としたり、生活單元を統一的な生活課題と季節的・行事的な生活課題との二本途としたり、これらの中核的課題のほかには、必要に応じて関係課程を並行せしめることは、すべて理念と実践との統一を追求し、試行して到達した本校独自の結論である。しかしこれは決して究極的結論ではない。これまでの研究における一應の報告であり、今後の進行に対する概説的なプログラムに過ぎない。問題はなお山積し責任は加重せられている。われわれはあくも同志の批判と協力とを期する。

われわれがつねに自ら戒めているのは、教育研究が、研究そのものに執着し、もしくは研究の発表そのものに動機づけられてはならないということである。われわれはあくまでも児童と共にある。児童への姿に動かされ、児童の成長のためにこそ自ら進まねばならない。教育研究の成敗は、郷土と祖国と人類との運命を決定する是き也代のありかたによつて、究極の判断を与えられるであらう。

昭和二年仲秋

●収録資料一覧

資料番号	資料名	作成・編・発行	発行年月
1	報徳教育の理論と実際（神奈川県指定研究第三十五輯）	足柄上郡福沢尋常高等小学校／編＝小沢永蔵	1940年12月
2	〔井上喜一郎文書〕 新教育と報徳教育・本校に於ける新教育の実際・本校の目標・発展の原理・〔社会性の原理〕・児童自治と母子常会・新教育理念と報徳との差〔発表構想メモ〕・高等科第二学年男女組社会科学学習指導案（1947年2月26日）		1946年
3	社会科学学習指導計画	文部省調査指定学校東京文理科大学実験学校 神奈川県足柄上郡福沢小学校	1947年10月
4	学校経営おぼえがき	東京文理科大学教育学教室指導 神奈川県足柄上郡福沢小学校	1948年10月
5	生活カリキュラム 一・二年	神奈川県足柄上郡福沢小学校	1948年10月
6	生活カリキュラム 三・四年	神奈川県足柄上郡福沢小学校	1948年10月
7	生活カリキュラム 五・六年	神奈川県足柄上郡福沢小学校	1948年10月
8	生活カリキュラム（第二次案）	神奈川県足柄上郡福沢小学校／井上喜一郎	1948年12月
9	生活カリキュラムの実践（第三次案）	神奈川県足柄上郡福沢小学校／井上喜一郎	1949年10月
10	実力の検討——実践指導をとおして	神奈川県足柄上郡福沢村立福沢小学校	1953年2月
11	学習における主体的必然性——問題、知識、実践、評価（実力の検討第二輯）	神奈川県足柄上郡福沢小学校	1954年2月
12	個人差を重んずる指導——ちえのおくれた子どもの指導を中心として（実力の検討第三輯）	神奈川県足柄上郡福沢小学校	1954年12月
13	社会科の実践的あり方（実力の検討第四輯）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1955年10月
14	ものわりのわいの子どもの指導をどうするか——み方、考え方、感じ方、行動のし方としてのほたらきをとおして（実力の検討第五輯）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1956年2月
15	子どもの考え方をたかめる社会科の指導——資料の扱い方（実力の検討第六輯）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1956年11月
16	ものわりのわいの子どもの指導をどうするか——生きがいのある生活をさせるには（実力の検討第七集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1957年2月
17	ちえのおくれた子どもの指導をどうするか——生きぬく力を得させるには（実力の検討第八集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1957年12月
18	子どもに「わかる」社会科の指導——国に対する意識の育て方・社会科実践上の問題（実力の検討第九集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1958年2月
19	子どもに「わかる」社会科指導——子どもの考えを中心として指導・評価（実力の検討第十集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1959年2月
20	新しい道徳の姿をさぐる——ものわりのわいの子どもの指導をとおして／しごとをとおして生きぬく力をどう育てていったか——言うべきときに言える子——よくわかる——みんなでみんなを（実力の検討第十一集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1959年3月
21	子どもに「わかる」社会科指導——知識における方向性 学習指導のあり方（実力の検討第十二集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1960年2月
22	子どもの思考の発展と学習指導——続「わかる」ことの追求（実力の検討第十三集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1960年11月
23	子どもの「思考のすじみち」と「考えのまとまり」の検討——続「わかる」ことの追求 学習指導における目標と方法（実力の検討第十四集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1961年12月
24	学習指導に子どもの思考体制をさぐる——「わかること追求」四 事実・子どもの思考活動・価値の具体的相関（実力の検討第十五集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1963年2月
25	学習指導における思考体制——「わかることの追求」五 事実と価値観の相関・思考の核と発展（実力の検討第十六集）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1964年2月
26	子どもをとりまく親や家庭の人々の見方・考え方の教育——家庭において子どものよりよい生活の指導をめざして（文部省委嘱福沢小PTA社会学級）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1958年12月
27	あすの社会の向上をめざし見方考え方を高めるための教育——子どもを中心として（文部省委嘱福沢小社会学級）	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1959年10月
28	道ひとすじに——井上喜一郎先生を送る記念誌	神奈川県足柄上郡南足柄町立福沢小学校	1963年9月
29	わが師・わが友——教育における主体的必然性と科学の追及（井上喜一郎先生退職記念誌）	編＝井上校長をかこむ会	1972年4月